

浜田市内 小学校 (16 校)

特色ある実践事例集



＜浜田市内小学校16校の実践一覧＞

学校	学年	教科等	学習・活動の名称	関係機関・団体等	頁
原井小	4	総合	浜田の魅力を伝えよう	渚の交番 be	2
雲雀丘小	4	総合	見つめ直そう 浜田の海	渚の交番 be	3
松原小	5	総合	浜田の海に親しもう	浜田市三隅B&G 海洋センター	4
石見小	特支	自立活動	花を育てよう		5
美川小	4	総合	「ふるさと美川」を守ろう！	しまね海洋館アクアス 美川まちづくりセンター	6
周布小	4	総合	川・海探検隊	浜田市三隅B&G 海洋センター	7
長浜小	5	総合	海に関する仕事を調べよう	境港湾・空港整備事務所、海上保安庁、浜田税関、浜田港運	8
国府小	4	総合	こくふっこ環境調査隊 ふるさとの海を守ろう	しまね海洋館アクアス、浜田市役所環境課、渚の交番 be	9
三階小	5	総合	浜田市の水産業について調べよう	島根県水産技術センター 渚の交番 be	10
雲城小	5	総合	藻塩づくり体験	浜田の海で生活する会	11
今福小	3・4	総合	海辺の生き物調べをしよう	しまね海洋館アクアス	12
波佐小	全校	体育	スキー教室	金城スキー山岳会	13
旭小	1	生活	海の落とし物を見つけよう	しまね海洋館アクアス	14
弥栄小	5・6	総合	地域の良さを知ろう	渚の交番 be	15
三隅小	4	総合	ふるさと三隅の環境について考えよう	三保まちづくりセンター	16
岡見小	6	総合	海から岡見を見つめよう	岡見まちづくりセンター しまね海洋館アクアス、渡船	17

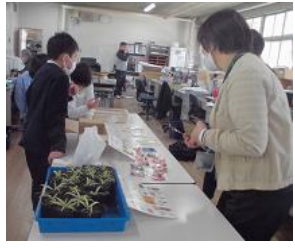
※ 総合：総合的な学習の時間

※ 特支：特別支援学級

学校名		浜田市立原井小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	浜田の魅力を伝えよう
めあて・目標		魚釣り体験や海遊び体験を通して、浜田の海の魅力を発見する。
関係機関・団体等		渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
○9月28日（火） おばせの浜 渚の交番beの田畑さんの指導のもと、ライフジャケットの着用の仕方や、ニッパーボードの使い方を学習し、実際に海で遊ぶことで、浜田の海の魅力を知る。 ○10月21日（木）瀬戸ケ島海岸 2人1組のペアになって釣り体験をし、浜田の海にいる魚の種類を知ったり、釣りの楽しさを知ることで海に親しみをもったりする。		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
事前学習として、浜田の海の魅力を予想したり、インターネットや図書資料を使って調べたりすることで、児童の興味関心を高め、意欲をもって体験活動に取り組むことができるようにした。 また、活動の中で、講師の方から、浜田の海にかかわる仕事の内容やその魅力について話をしてもらい、浜田の海の良さを改めて知ったり感じたりすることができるようにした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
今回の学習を通して、知ったことや分かったこと、気付いたこと、考えたことなどをグループでまとめ、保護者や地域の方に伝えたいという思いをもった。そこで、表現の仕方や伝え方等を工夫して、学習発表会で発信した。発表会後の振り返りでは、「今まで自分は浜田の魅力を知っていると思っていたが、今回の体験活動を通して、自分の知らなかった浜田の海の魅力を知ることができた。」「今回知った浜田の魅力を、おうちの人だけではなく、たくさんの人々に伝えていきたい。」という思いや願いをもった。		

学校名		浜田市立雲雀丘小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	見つめ直そう 浜田の海
めあて・目標		浜田の海でできることを調べたり、実際に体験したりすることを通して、浜田の海に対する愛着や大切にしていこうという気持ちを育てる。
関係機関・団体等		渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
○10月5日（火） 渚の交番beからすぐの波止場で、二人一組による魚釣り体験を行った。釣った魚の名前を教えていただき、浜田の海にどんな魚がいるのか興味を持ったり、釣りの楽しさを知ったりして海への親しみを持つことができた。		
 		
○10月11日（月） 渚の交番beで浜田の特産品として販売していることなどの話も伺いながら、手間のかかる塩づくりの工程を体感しながら藻塩づくり体験を行った。		
 		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
子どもたちの身近に存在する浜田の海であるが、学習のはじめに海に対する経験やイメージを尋ねたところ、実際に海と関わる経験等が少なく、海に対するイメージも「こわい」「苦手」とする児童が多く見られた。そこで、海の楽しさやよさを子どもたちに感じることができるよう、海にかかわる体験活動を取り入れることで海へのイメージをプラスにできるように考えた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
調べ活動や体験活動を通して、ふるさとの海のよさやすばらしさに気づくことができ、「もっと浜田の海に親しんでみたい」「きれいな海をこれからも守っていきたい」という気持ちを持つことにつながった。学習が2学期からだったので、児童が体験できる活動が狭まってしまった。1学期の取り組みとすれば、夏の時期にできる体験にも取り組むことができ、子どもたちに多様な体験をさせることができたと考える。		

学校名		浜田市立松原小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	浜田の海に親しもう。
めあて・目標		浜田の海で遊ぶ活動を通して、浜田の海の魅力を知り、浜田の海への愛着をもつ
関係機関・団体等		浜田市三隅B&G海洋センター
実施内容（期日、場所等を含む）		
日時：令和3年6月25日（金）（3時間） 場所：三隅B&G海洋センター 浜田市三隅B&Gの方にライフジャケットを用意してもらい、三隅の海で海遊びをする班とカヌーをする班に分かれて活動をおこなった。浜田の海で遊ぶことで、浜田の海の魅力を知ることや海への愛着をもてることを目的に行った。 また、浜田の海岸を歩いてみることで外国からの漂流ごみがあることやプラスチックゴミが多いことに気づくことができた。		
  		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
導入部分で海に実際に入り、楽しむ活動を取り入れることで、その後の総合的な学習の中で取り組む「海を知る」や「海を守る」活動への導入となるように計画した。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・海で遊んだ経験を通して海に対する愛着や海を守っていききたいという気持ちをもつことができた。 ・海に様々なゴミがあることに気づくことができた。 ・子どもたちにさらに強い海への愛着をもたせるために海で遊ぶ経験（釣りなど）を他にも実施したかったが新型コロナウイルスの影響で実施することができなかった。		

学校名		浜田市立石見小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
特支	自立活動	花を育てよう
めあて・目標		・花づくりを通して、栽培活動の楽しさを味わう。 ・花の販売活動を通し、積極的に他者と関わろうとする態度を養うとともに、コミュニケーション能力を高める。
関係機関・団体等		
実施内容（期日、場所等を含む）		
・4月：種まき ・5月：苗植え 水やり ・6月：販売練習 ・7月：販売①（校内） 全学級へのプレゼント ・9月：販売練習、宣伝活動 ・10月：販売②（保護者）		
      		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・生活科や理科の学習と関連付け、育ち方や苗の様子を観察した。 ・昨年度までの花や野菜づくり経験を上級生から下級生に伝えたり、育て方のコツについて調べた児童が全体に教えたりする場面を設定することで、児童同士の関わりを増やすとともに、主体的な活動となるよう促した。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・世話をしながら苗の観察をし続けたことで、「花の種類がちがうと生長速度もちがう」「花の種類によって葉の形や模様(葉脈の入り方)がちがう」など、多くの発見をすることができた。 ・プランターで育てたため、毎日朝と放課後に水やりをおこなった。実際に自分たちでお世話をすることを通して、植物を育てる大変さを感じるとともに、小さな命を大切にしようとする気持ちが感じられた。 ・育てた花は、全学級にプレゼントをしたり、販売活動をしたりした。多くの方に喜んでもらうことができ、活動の達成感や充実感につながった。		

学校名		浜田市立美川小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	「ふるさと美川」を守ろう！
めあて・目標		地域の自然と自分達の暮らしとの関わりについて調べることを通して、環境保全について関心を高めることができる。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス、美川まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む）		
3年生では、「美川っ子探検隊」というテーマで、ふるさと美川の良いところ、自慢できるところを探求する学習を行った。それを踏まえて、4年生では、みんなの大切なふるさと美川を守っていくために何ができるのか、環境保全を主体として学習を展開した。周布川に直接ふれたり、川と関わりの深い人と交流したりしながら活動を進めたいと考え、様々な活動を計画し、実施した。地域講師としては、アクアス職員の山口さん、水鳥公園を作って野鳥に餌付けをされている岡本さんなど、様々な方の話を聞き、体験や見学をした。 ・周布川や水辺の生き物について図書資料やインターネットで調べる。 ・サケの放流を行う。（4月21日：周布川河川敷） ・内田川の水質調査を行う。（6月8日：内田川） ・野鳥観察をし美川地区の川と自然と鳥の共存について知る。（11月29日：周布川土手） ・ふるさと美川を守るため（環境保全）に自分達にできることを考える。 ・自分達にできることを考え、実践する。（3月4日：河川敷、土手ごみ拾い）		
   野鳥の観察の様子 水質調査の様子 サケの放流の様子		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・総合的な学習の時間を使って、1年をかけて活動を行ったこと。 ・話を聞くだけでなく、実際に体験することに重点を置いた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
児童の実態として、本や辞典、資料で調べることにとても意欲的な児童が多い。この学習を行ったことで、自分で調べて分かたり課題解決したりすることができ、さらに調べようとする意欲が高まった。また、野鳥については、タブレットを用いて調べ学習も行った。写真や音声があることで鳥のことが良く分かり、より学習に関心がもてた。また、毎日見ている周布川について学習を進めたことで、四季の様々な景色や動植物の様子、地域の行事などについての関心が一層高まった。 児童が主体的に地域と関わっていくために、今後も地域課題を解決する探求的な学習の進め方を検討していく必要がある。また、担任が変わっても前年と同じように地域の方々と関わっていけるよう、校内において地域人材のデータベース化を進めている。それを活用して今後もより一層地域と連携して活動を進めていきたい。		

学校名		浜田市立周布小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	川・海探検隊
めあて・目標		浜田の海や周布川について体験したり調べたりする活動を通して、ふるさとに対する誇りやふるさとを大切にしようとする気持ちを育てる。
関係機関・団体等		浜田市三隅B&G海洋センター
実施内容（期日、場所等を含む）		
○9月24日（金） 三隅の海岸でカヌー体験を行った。カヌーを漕ぎながらマリンスポーツの楽しさを感じつつ、ライフジャケットを付けた時と付けていない時の浮き方を体験し、命を守りながら安全に海に親しむよさについて知ることができた。また、海辺の事故について写真を見ながら考えることができた。		
		
○11月25日（木） 日脚海岸のゴミ拾いを行った。予想していたよりも多くのゴミが落ちており、ゴミを適切に処理することの大切さが分かった。ふるさとの海を自分達で守っていきたいという思いを高めることができた。		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
子ども達の身近にある周布川についてKJ法を使って情報を整理したところ、周布川祭りや生き物についての話が出た。川の利用や川や水をきれいにするための取り組み、地域の人々の川に対する思いなどを調べ、自分達も水を大切にふるさとの川や海を守っていきたいという思いを高めた。実際に日脚海岸にゴミ拾いに行ったことで、ふるさとの貢献できたという意識を持たせた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
調べ学習や体験学習を通して、周布川や浜田の海の様子と地域の人々の思いを知り、「海が好きになった」「周布川はすごい」「昔のようにきれいな周布川に戻したい」という思いを持つことができた。また、氾濫の歴史や川と共に発展してきた地域について考える中で「昔の人々の努力のおかげで安全に暮らせている」と考えたりゴミ拾いをする事で「もっとふるさとの貢献したい」という意欲を高めることにつながった。計画していた沢登りが地域の方の高齢化に伴い実施できなかったため、周布川について深く追及する活動から離れてしまったが、カヌー体験を通して川と海が繋がっていることをより実感することができた。		

学校名		浜田市立長浜小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	海に関する仕事を調べよう
めあて・目標		くらしを支える港の役割や港で働く方々の思い知り、水産業への興味・関心を高めるとともに、自分たちの生活は海と密接にかかわっていることに気づく。
関係機関・団体等		境港湾・空港整備事務所、海上保安庁、浜田税関、浜田港運
実施内容（期日、場所等を含む）		
◆『港の大研究』港の役割は？（10月1日） 境港湾・空港整備事務所の方に来ていただき、港の役割についての話を聞いた。「港がないとスーパーの商品棚が空っぽになる」ということを知り、とても驚いていた。自分たちの住んでいる浜田にも港があり、中国や韓国と貿易をしていることや、木やバイオマス発電のための燃料などが運ばれていること知った。		
◆海上保安庁はどんな仕事をするのか？（10月27日） 海上保安庁の方に来ていただいて仕事について詳しく話を聞いた。「海の警察官」として、海上での安全を守ったり人命救助をしたりすることはもちろん、「海の安全」を守ることが「私たちの生活を守る」ことにつながるということを知ることができた。		
◆税関は何のためにあるのか？（11月15日） 浜田税関の方に来ていただいた。実際に仕事で使われている探知機などを児童にも触れさせていただいたことで、税関の重要性和「税関があるから自分たちの生活が守られている」ことに気づくことができた。		
◆ガントリークレーンやコンテナは何のためにあるのか？（11月25日） 浜田港運へ見学に行った。海外船からの荷物をガントリークレーンやコンテナで実際に運ぶところを見せていただいた。一つの船から荷物を下ろすのに何人もの人の手がかかっていることやとても時間のかかる作業であるということを知った。また、海風の強い中での仕事だということを感じ、大変な仕事であることに気づいた。		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○児童が興味・関心を示したことや、疑問に思ったことを学習課題としたこと。 ○個人の学びとグループの学びと分けてまとめたこと。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○自分たちの身近にある海、港、それに携わる人々について多くのことを学んだ。実際に話を聞いたり見学したりすることを通して、地域の海や港をより身近に感じるとともに、重要性にも気づくことができた。○海に関わる仕事をする人々との交流を通して、それぞれの思いを知ったり海の大切さを感じたりすることができた。また、自分たちの生活と密接に関わっている海を大切にしようという意識が高まった。		

学校名		浜田市立国府小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	こくふっこ環境調査隊 [ふるさとの海を守ろう]
めあて・目標		地域の川や海の水質調査を通して、水辺の環境保全に興味をもち、環境を守る活動や環境の大切さを発信する取組から、ふるさとの自然を守っていこうとする態度を育てる。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス、浜田市役所環境課。渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
1 課題設定〔活動の中から問題意識をもち課題を設定する〕（4時間） 7月13日、渚の交番beの方に国府海岸に来ていただき、ふるさとの海と楽しく触れ合うことを通して、よさを実感し、大切にしていきたいという心情を高めた。海岸にたくさんのごみが打ち上げられているということに気が付く児童もたくさんいた。ここに問題意識をもち、海の生き物を守るために環境をよくする取組をするという学習課題を設定した。 2 探究的な学習〔問題についての知識を広げていく〕（17時間） 10月6日、アクアスの方に来ていただき、下府川の生き物や水質環境等の調査・探究活動を行った。下府川に生息する生き物の生態を把握したり、環境保全について考えたりすることができた。 また、ふるさとの海の環境をよくするために国府海岸のごみ拾いの計画を立てた。まちづくりセンターを通してビラを配り、ごみ拾いの参加者を募ったところ、10月12日の当日には、地域の方が集まってくださり、たくさんのごみを集めることができた。続いて、その日に、拾い集めたごみはどこからきたものか、環境にどのような影響を与えているかについて、市役所の環境課の方や水辺の環境を守る活動をしている方から教えていただいた。 3 課題解決的な学習〔自分達で考えた解決の方法をやる〕（6時間） 環境を守る取組について、本で調べた方法や環境課の方から教えていただいた方法を実際に家庭で取り組んでみた。すると、実際に取り組んだことや学んだことをまとめて発信したいという気持ちが高まった。 4 学習のまとめと振り返り〔1年間の学習を通して学んだことを振り返る〕（8時間） 1人1台のタブレットを使い、教師が用意したフォーマットに自分が取り組んだことや、そこから分かったこと、気づいたことを文章で入力したり、画像を張り付けたりしてまとめた。これを印刷・冊子にし、保護者や地域の方に発信する予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、実現できていない状況である。		
  		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと） 初めに、海での楽しい活動を設定し、よさを実感することで、ふるさとの海の環境を自分達で守りたいという主体的な学習になった。また、地域の方と一緒に活動する時間を設定することで、地域の方々の海への思いを児童が直接感じられる場面が多く見られた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等 活動を進めていくごとに、ふるさとの海への愛着が増し環境を守ろうという実践意欲が高まった。しかし、新型コロナウイルス感染症のため、予定していたことが延期・中止、変更など、計画通りに進めることができなかった。特に、保護者や地域の方に学校に来ていただき、発信する予定であったことができなかった。残された日数で、今年度の取組をまとめ何らかの形で発信していきたい。		

学校名		浜田市立三階小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合	浜田市の水産業について調べよう
単元又は授業等のめあて・目標		・浜田市の海・水産業への興味・関心を高める。 ・水産業について、調べたり、話を聞いたり、見学したりしたことをまとめる。
関係機関・団体等		島根県水産技術センター、渚の交番be
単元又は授業等の概要（期日、場所を含む）		
  島根県水産技術センターの見学（6月24日） 海遊び体験（7月15日 渚の交番be）		
○浜田の海・水産業について調べよう ・本やインターネットを活用して、水産業について調べた。 ・島根県水産技術センターへ行き、センターの方の話を聞いたり、施設内を見学したりした。 ・浜田市の水産業について調べたことをポスター、リーフレット等にまとめた。 ・浜田市の海洋教育プログラム（ビーチクリーン・海遊び）を体験した。		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○専門的な立場の方（島根県水産技術センターの方）からの話を聞く学習を設定したこと。 ○島根県水産技術センターの施設見学を設定したこと。 ○見学に加えて、体験を取り入れたことで、海の「楽しさ」を味わうことができたこと。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○浜田市の水産業について本やインターネットで調べたり、話を聞いたりすることを通して、浜田市の海や水産業への興味・関心が高まった。 ○水産資源の豊かさに気づき、浜田市の海、水産業は浜田の誇りであると考えていた。また、海遊び体験を通して、浜田の海により愛着をもつことができた。 ○学んだことを全校等に発信し、浜田の海や水産業の魅力を伝えられるように授業時数を確保したり、単元計画を立てたりすればよかった。		

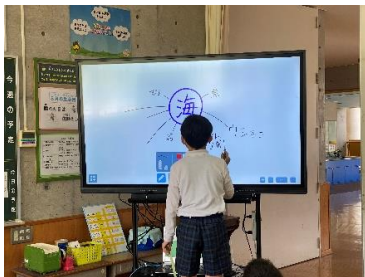
学校名		浜田市立雲城小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	藻塩づくり体験
めあて・目標		浜田の港で海にかかわる仕事について知る活動を通して、ふるさと浜田に対する愛着を深めたり、ふるさとの良さに気づいたりする。
関係機関・団体等		浜田の海で生活する会
実施内容（期日、場所等を含む）		
令和3年10月7日、浜田港近くの海の交番にて5年生児童15名で活動を行った。 金城町の児童は普段から海に行く機会の少ない児童が多いため、今回の活動を通して浜田の海の美しさや豊富な資源について知ることができた。 活動では、初めに原料となる「かじめ」のことや、くみ上げる海水の話、昔の藻塩作りの様子についての説明を聞いた。知らないことばかりで、児童は大変興味をもって聞いていた。 その後、グループに分かれて藻塩づくりを行った。カセットコンロ、片手の雪平鍋といった身近な道具から藻塩が作れることにまず驚いていた。 実際の活動では、鍋に海水とかじめを入れ、ひたすら煮込む中で次第に煮汁の色が変化していく様子を興味深く見たり、途中で味見をして「うまみ」を感じたりする姿がみられた。藻塩のおいしさと手軽に作れる工程に感心する児童が多かった。また、活動の中で、ふるさとに愛情をもって活動をする人々の話や活動にふれることで、児童自身もふるさとのよさに気づき、大切にしたいという気持ちを抱くこともできたようだった。 出来上がった藻塩は、一部を残して自宅に持ち帰り家庭で味わったようだった。 残した一部は、児童が小国で地域の方と作った米で「おにぎり」にして全校児童に配り味わった。小国米と藻塩のおにぎりはたいそうおいしく「ふるさとの味」がしたようであった。他学年が5年生に感想カードを書いて持ち寄るなど、交流にもなった。		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・様々な活動が総合的な学習の時間に連動するように年間計画を立てた。 ・合科的な学習になるように関連づけた活動にした。 （コロナ禍でも対応できるよう、年間計画を練り直した。）		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・総合的な学習の時間で学んだ他の活動と関連付けている様子が見られた。 ・浜田の魅力を感じ、もっと知りたい、調べたいという意欲が持てた。		

学校名		浜田市立今福小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
3・4	総合的な学習の時間	海辺の生き物調べをしよう
めあて・目標		畳ヶ浦の海辺にどんな生き物がいるか観察し、調べたことを伝えよう。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス
実施内容（期日、場所等を含む）		
【日時】令和3年6月3日（木）8:45～12:00 【活動場所】石見畳ヶ浦 しまね海洋館アクアスの方から、畳ヶ浦の海辺に生息する生き物について説明を受けた。写真の提示もあり、児童は生き物への理解を深めるとともに、その後の活動への意欲を高めた。 採取活動では、各自、網で生き物をすくい上げてバケツに入れたり、岩に付いている貝を興味深く観察したりした。自分が見つけた生き物を嬉しそうに周囲の友達に見せる姿や、アクアスの方に進んで声をかけて自分が採った生き物の名前を教える姿が見られ、どの子も意欲的に活動に取り組んでいた。採った生き物は写真を撮った後、元の場所へ戻した。 学校では、自分が興味をもった生き物についてより詳しく調べる活動を行った。学校司書と連携し、関連の本を準備し、スムーズに調べ学習を行うことができた。調べたことを新聞にまとめ、友達や保護者に情報発信することもできた。		
   		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・安全面を考慮し、適した時期を考えて活動計画を立てた。 ・関係機関と事前の打合せをし、学習のねらいや活動の内容などの共通理解を図った。 ・活動に関連のある本を教室に置くことで、意欲を高めたり調べ学習に役立てたりした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・いろいろな生き物を自分の手で採取することができ、海にすむ生き物への関心を高めることができた。初めは恐る恐る活動していた児童も、慣れてくると歓声を上げながら生き物をとったり、嬉しそうに友達に見せたりするようになった。 ・児童がよく知っている生き物だけでなく、珍しい生き物も採取することができた。アクアスの方の専門的な話を聞くことで、児童の関心の高まりを感じた。改めて、事前の打ち合わせの重要性を実感した。 ・アクアスの方の協力により、日頃できない貴重な体験ができた。ふるさと浜田のよさや地域の人々の温かさを感じることもできる活動となった。		

学校名		浜田市立波佐小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
全校	体育	スキー教室
めあて・目標		・6年間を通してスキーの技能を習得する。 ・雪の上で楽しく活動し、元気な体をつくる。 ・助け合う気持ち・挑戦する気持ちを育てる。 ・ふるさとの自然の恩恵や地域の方々の支援・協力に感謝する心を育てる。
関係機関・団体等		金城スキー山岳会
実施内容（期日、場所等を含む）		
○期日及び場所 期日：令和4年 1月19日（火） 場所：大佐スキー場 ○グループ分け Aグループ…スキーになれているコース （これまでに身に付けた技能を使ってコースでの滑走を楽しむ） Bグループ…スキーの基礎的な技能を高めるコース （スキーの基礎的な技能を使って滑走を楽しむ）		
 		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
スキー教室実施規定を遵守し、職員行動表に沿って安全第一を考えた。特に、あいさつ、レストランでのマナー、感謝の気持ちをもつことについて指導した。当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、滑走・食事以外はマスクを着用し、食事前やバスの乗降時には手指消毒をこまめに行うなどして予防に努めながら、楽しい一日を過ごした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
当初の予定では、スキー山岳会より3名の方に講師依頼をしていたが、コロナ禍のため高齢者施設勤務の講師さんはお呼びすることができなかった。しかし、グループを2班に再編成し無理のない範囲で活動し、スキー初体験の1年生も午後からは滑走を楽しむことができた。Bグループの2年生は、リフトに乗って頂上から滑ることができ、貴重な経験をすることができた。		

学校名		浜田市立旭小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
1	生活	海の落とし物を見つけよう
めあて・目標		砂浜にある貝殻や漂流物を見つけることで、海に興味をもつことができる。
関係機関・団体等		しまね海洋館 アクアス
実施内容（期日、場所等を含む）		
11月4日（木）、波子海岸にて実施。貝殻や漂着物など、海岸に落ちている物を探す活動を行った。 最初にアクアスの学芸員の方から、どのような物が落ちているかについて説明を受けた。児童は説明を聞き、拾いたい物を考えたり、珍しい物を見つけたいという思いをもったりし、活動への意欲が高まった。 活動中は、何が落ちているかじっくりと砂浜を観察し、見つけた貝殻などの大きさや色などの特徴を捉えながら活動に取り組んだ。 活動後、円になって座り、見つけた物を一人ずつ紹介した。アクアスの学芸員の方が、児童が紹介した物について一つ一つ説明をしてくださったことで、海の生き物などについての興味がより高まった。また、ゴミを見つけた児童がいたことから、環境についても考えることができた。 ゴミがどこから流れてくるかを知ること、海が外国とつながっていることや、自分たちもポイ捨てをしてはいけないこと考えることができた。さらにクルミが落ちていたことから、海と山がつながっていることや、山を大切にすることが海を大切にすることにつながるのだということを知ることができた。		
 		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○海からは離れた地域に住んでいるので、実際に海に行く機会を設け、五感で海を感じられるようにした。 ○アクアスの学芸員の方に講師を依頼し、貝殻などの説明をしてもらうことで、海に対する興味・関心が高まるようにした。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○学芸員の方に貝殻や海の生き物の話をしていただき、海や海の生き物への興味・関心が高まった。 ○海岸にゴミが落ちていたことで、ポイ捨てなどをせず、海を大切にしないといけないという気持ちを持つことができた。 ○木の実がどこから流れ着いたかを考えたことで山と海が川でつながっていることを知り、山も大切にしようという思いをもつことができた。		

学校名		浜田市立弥栄小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5・6	総合的な学習の時間	地域の良さを知ろう
めあて・目標		浜田の海での体験を通して、地域の自然の良さを知る。
関係機関・団体等		渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む）		
1 期 日 令和3年9月21日（火）9：00～12：00 2 場 所 渚の交番be（浜田市瀬戸ヶ島町） 3 内 容 「海に親しみ、豊かな感受性や興味関心等を培い、体を動かしながら海に進んで関わろうとする態度を養う」「海の自然や資源、それを取りまく人や社会との深い関わりやその歴史について関心をもつ」ことを活動の目標に掲げ、「渚の交番be」の方の指導をうけながら、「釣り体験」を行った。 最初に浜田ライフセービングクラブでの活動にもかかわっておられるスタッフのお話を聞いた。「安全ということに加えてふるさと浜田の海の美しさや、自身が活動を始めた理由なども聞くことができた。続いて、瀬戸ヶ島埋め立て地の清掃活動・釣り体験を行った。 以下、子どもたちの感想である。		
・ぼくは初めて海での釣り体験をしました。・始める前にゴミを拾いました。・あんなにゴミがあるんだなと思いました。・海にゴミのポイ捨て絶対にしてはいけないと改めて思いました。・最初は結構釣れたけれど、後から釣れなくなってきました。・場所を変えたら釣れました。・魚もかしこいなと思いました。・釣った魚は、スタッフの人たちが言われたように持って帰ってから揚げにしました。・また、家族と釣りをしたいなと思いました。・違う釣りかたもやってみたいです。		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
誇りを持って活動しておられるスタッフのお話を始めにお聞きすることは必要であると思った。子どもたちが海の安全や環境を守る意欲をもち、浜田の海に愛着と誇りを持つためにも体験前にガイダンスをしていただく意義を実感した。とても良い体験であった。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
「海に親しみ、豊かな感受性や興味関心等を培い、体を動かしながら海に進んで関わろうとする態度を養う」という目標はおおむね達成できた。今後も、「楽しい」体験を通して、郷土の自然・海洋に対して自分にできることは何かを考える子どもの育成を考えたい。		

学校名		浜田市立三隅小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	ふるさと三隅の環境について考えよう
めあて・目標		自分たちのふるさと三隅の環境について調べたり、環境保全にかかわる人々と体験的な活動をしったりすることを通して、地域の環境やそれに関わる人々の願い、思いにふれ、体験活動などから課題を見出し、解決に必要な情報を収集し、目的に応じて比較・分類・関連付けて考える力や相手意識・目的意識を明確にして表現する力を育てるとともに、人々に関わったり、暮らしやすい環境について考えたりしようとする態度を育てる。
関係機関・団体等		三保まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む）		
1 田ノ浦海岸へ行き、海岸の様子を観察する。（7月）		
		
2 海岸の漂着ごみについて調査する。（7月）		
		
3 海岸の清掃活動をする。（10月）		
		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○子どもたちの気づきが活動につながるように、まず、海岸へは図工の材料探しということで出かけた。そこから、海岸には漂着したごみがたくさんあることに気づかせ、さらに、いろいろな所からごみが漂着していることに気づかせた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○漂着ごみが自分たちの出したものだけでなく、外国から来たものもあることを知り、調査活動への意欲が高まると共に、どうすればごみを減らすことができるのかという課題に対しても、国際的な視野をもって考えることができていた。		
○子どもたちの考えた取組等を、実際に発信する活動が十分に行うことができなかった。保護者や地域のみならず、HP等を活用した発信活動を行っていきたい。		

学校名		浜田市立岡見小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
6	総合的な学習の時間	海から岡見を見つめよう
めあて・目標		三隅（岡見）にある防波堤から岡見の地域を見て歩いたり、現地で魚を釣ったりすることで、自分たちの地域の海の自然の素晴らしさに気づくとともに、自分たちでその宝を守っていこうとする気持ちを育てる。
関係機関・団体等		岡見まちづくりセンター、しまね海洋館アクアス 渡船業者
実施内容（期日、場所等を含む）		
期日：令和3年7月14日（水） ・学校→古湊港→乗船体験→波止探検→魚釣り体験・生き物採取→乗船体験→古湊港→学校 ・乗船体験…岡見の山々や海岸などをいつもと違う視点から見て感じる。 ・波止探検…三隅港北防波堤（約1km）の長さを歩きながら実際に体感。（海上の波止の暑さ、海風の涼しさも実感） ・魚釣り体験・生物採取…釣り竿を使ったサビキ釣り、プランクトンネットを使った生物採取。 ・クリーン作戦（関連） 学校に帰った後、採取した生物（プランクトン）をアクアス職員と一緒に観察しながら海の生態や岡見の海の環境の素晴らしさを知る。		
   		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
・単なる魚釣り体験に終わらないように生き物採取を行い、理科での学習と関連付けながら岡見の海について考えさせるようにしたこと。（アクアス職員の専門性を生かす） ・まちづくりセンターの方に岡見の海について話をしていただき、新たな発見や気づきを促すことができたこと。 ・渡船業者と打ち合わせをし、海上から地域を見るコースを設定したこと。また、釣り客と連携して釣れた魚を見せてもらえるようにしたこと。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
・初めは全く釣れなかったが、みんなで考えて棚を探ったり、投げる距離を変えたりして釣れるようになった。怖がっていた児童が喜んで活動している姿も見られた。また、家に持って帰ったアジ（2匹）を家の人と一緒にフライにして食べたという声が聞かれた。 ・海の生物（プランクトン）に興味をもち、夏休みの研究に取り組んだ児童がいた。研究をまとめ、お礼としてアクアスへ送ったという嬉しいエピソードもあった。さらに、アクアス職員から賞状のサプライズがあった。		